
 学 会 記 事

第 98 回新潟内分泌代謝同好会

日 時 平成 25 年 12 月 7 日 (土)
午後 2 時 40 分～午後 6 時
会 場 新潟グランドホテル 5 階
「波光の間」

I. 一 般 演 題

 1 特発性中枢性尿崩症に対してデズモプレシン
口腔内崩壊錠で治療した 1 例

鈴木 克典

済生会新潟第二病院代謝・内分泌内科

症例は 64 歳，女性。1969 年（20 歳時）口渇，多飲，多尿を主訴に岐阜県某総合病院を受診。尿崩症疑いと言われたが，治療薬は不要といわれた。以後，1 日 7～8ℓ の水を飲み，口渇を回避していた。2010 年 11 月 26 日多尿の精査を希望され当科を初診。高張食塩水負荷試験＋ピトレンシ
ン負荷試験，頭部 MRI にて特発性中枢性尿崩症と診断され，バゾプレシンの点鼻治療にて治療した。43 年間心因性多飲症として扱われ，多飲することで症状を緩和していた特発性中枢性尿崩症患者はバゾプレシン点鼻剤で症状が解消した。その後，アレルギー性鼻炎を併発し，バゾプレシ
ン点鼻剤の体内移行が不確かとなり，夜間尿意に対する不安から不眠も併発していた。今年，バ
ゾプレシン経口薬が中枢性尿崩症に適応拡大となり，投与可能になった。本患者にバゾプレ
シン点鼻剤から経口薬に変更して患者の QOL が劇的に改善し，有効性を認めたため報告する。

 2 女性化乳房，思春期早発症を呈した小児副腎皮
質腫瘍の 1 例

 佐藤 英利・小川 洋平・長崎 啓祐
菊池 透・齋藤 昭彦

新潟大学医歯学総合病院小児科

【背景】小児副腎皮質腫瘍は非常に稀な腫瘍で，多くは機能性腫瘍であり，男性化症状やクッシング徴候で発見される。女性化乳房，思春期早発を主訴に来院し，アンドロゲン産生副腎皮質腫瘍と診断された 1 例を報告する。

症例は 9 歳，男児。7 歳頃より身長増加，肥満傾向，女性化乳房を認め，8 歳からの恥毛発現を主訴に受診した。

【身体所見】身長 148.6 cm（+ 2.9 SD），体重 51.5 kg，血圧 117/67 mmHg。外性器所見：Tanner stage 陰茎 2 度，陰毛 3 度，乳房 3 度，精巣容積 3 ml。腹部平坦で腫瘤を触れず，色素沈着なし。CT 所見：左副腎に 7.5 × 6.5 × 8.0 cm 大の腫瘤を認めた。

【検査所見】LH < 0.6mIU/ml，FSH < 0.4 mIU/ml，E2 < 25 pg/ml，テストステロン 42.4 ng/dl，DHEA-S 3652 ng/ml，コルチゾール（F），ACTH は日内変動を認め，デキサメサゾン抑制試験で F は抑制された。アンドロゲン産生腫瘍と診断し腫瘍摘出術を行った。

【考察】小児副腎皮質腫瘍ではまれに女性化乳房も報告されている。本例の女性化乳房は局所のホルモン不均衡によるものと考えられた。

【結語】女性化乳房を呈した男児においては機能性腫瘍も念頭に置いた検索が必要である。